

平成25年度 総社小学校 学校評価書 別紙

(A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価 (今年度 中間)			自己評価 (今年度 最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	自己評価の適切さ
1 心の教育の充実	①道徳教育、人権教育を充実することにより、児童が気持ちのよいあいさつや思いやりの心を生活の中で実践することができるようにする。	・気持ちのよいあいさつができてきているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員アンケート)	アンケート結果 ・児童 89% ・保護者 79% ・教職員 100% 学校ではあいさつがよくできるが地域では十分できていないと考えられる。	B	○週目標に掲げ取り組む。 ○児童会主催による挨拶運動を実施する。	アンケート結果 ・児童 85% ・保護者 78% ・教職員 71% 中間期に比べ低下。特に教職員の低下の割合が大きい。	B	○重点目標として1年を通して週目標に掲げる。 ○児童主体の挨拶運動を実施する。	・自己評価は適切である。 ・児童会を中心として児童自身があいさつ運動を実施する取組が児童の自己評価を高めていると思われる。地域に出た時も気持ちのよいあいさつがしっかりできるよう、学校、家庭、地域のさらなる連携協力が必要である。
		・思いやりの心をもって生活しているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員アンケート)	アンケート結果 ・児童 94% ・保護者 92% ・教職員 100%	A	○現状通り継続して推進する。	アンケート結果 ・児童 89% ・保護者 91% ・教職員 89%	A	○現状通り継続して推進する。 ○異学年間、同学年間のピア・サポートを実施する。	・自己評価は適切である。 ・ピア・サポートの取り組みに期待したい。 ・アンケートにおいて、「思いやり」の定義(内容)を示した方がよいのではないか。
2 健康・体力づくり	②健康教育・特別活動を充実することにより、児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに、目標をもって最後まで活動に取り組むことができるようにする。	・睡眠などの基本的な生活習慣が身に付いているという回答が80%以上である。 (児童、保護者アンケート)	アンケート結果 ・児童 78% ・保護者 70%	B	○すいみんチェックの実施を2月までに、4回実施し、児童がチェックを確実にするよう、意識づける。	アンケート結果 ・児童 73% ・保護者 69% (教職員 92%)	B	○すいみんチェックの実施。 ○すいみん授業の実施(できれば参観日)学級懇談の話題として取り上げる。	・自己評価は適切である。 ・「参観日の学級懇談の話題に取り上げる」とのアイデアは、直接保護者にメッセージが届けられるよい機会だと思う。 ・保護者と連携しての睡眠チェックは定着してきているように思われる。
		・行事などに目標をもって最後まで頑張っているという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員アンケート)	アンケート結果 ・児童 93% ・保護者 93% ・教職員 100%	A	○現状通り継続して推進する。	アンケート結果 ・児童 93% ・保護者 93% ・教職員 100% 中間期より向上	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。
3 確かな学力の向上	③協同学習の視点を取り入れた授業改善により、児童が進んで学習に取り組むとともに、基礎学力を身に付けることができるようにする。	・進んで学習に取り組んでいるという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員アンケート)	アンケート結果 ・児童 87% ・保護者 85% ・教職員 98%	A	○現状通り継続して推進する。	アンケート結果 ・児童 83% ・保護者 86% ・教職員 98%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。
		・授業が分かるという回答が80%以上である。 (児童、保護者、教職員アンケート)	アンケート結果 ・児童 87% ・保護者 83% ・教職員 100%	A	○現状通り継続して推進する。	アンケート結果 ・児童 86% ・保護者 83% ・教職員 97%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。
4 開かれた学校づくり	④各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開により、積極的に情報を発信する。	・学校から積極的に情報発信が行われているという回答が80%以上である。 (保護者、教職員アンケート)	アンケート結果 ・保護者 88% ・教職員 95%	A	○現状通り継続して推進する。	アンケート結果 ・保護者 82% ・教職員 88%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。 ・メール等を積極的に活用してもらいたい
		・登下校時の安全確保の取組を行っているという回答が80%以上である。 (保護者、教職員アンケート)	アンケート結果 ・保護者 84% ・教職員 100%	A	○現状通り継続して推進する。	アンケート結果 ・保護者 80% ・教職員 98%	A	○保護者も登下校巡察に参加するよう協力を求める。学校任せにせず、保護者の意識を高める。	・自己評価は適切である。 ・保護者の約20%が学校の登下校の安全確保の取組みに不安を持っている状況をさらに改善してほしい。一方で、学校任せにしない保護者の意識の向上も必要と思われる。
		・家庭学習や読書の習慣が定着しているという回答が80%以上である。 (保護者、教職員アンケート)	アンケート結果(家庭学習) ・児童 88% ・保護者 85% ・教職員 97%	A	○現状通り継続して推進する。	アンケート結果(家庭学習) ・児童 89% ・保護者 85% ・教職員 95%	A	○現状通り継続して推進する。	・自己評価は適切である。
		アンケート結果(読書の習慣) ・保護者 56% ・教職員 100% 学校では読書をする時間を確保している。家庭での読書は、あまりできていないと思われる。	C	○家読週間を2月までに4回実施する。家読カードの活用と啓発を図る。	アンケート結果(読書の習慣) ・保護者 51% ・教職員 98% (児童 63%)	C	○家読カードの活用と啓発を図る。 ○読書を家庭学習の課題として課す。(週末等を利用)	・自己評価は適切である。 ・学校での読書活動や読み聞かせを継続することで本を好きになり家読の時間が増えることを期待したい。	